

Webによる授業改善アンケート 生命医科学科としての取り組み



生命医科学科 教授
下方 薫



生命医科学科 准教授
浅野治彦

今年度導入された「Webによる授業改善アンケート・授業評価システム」を活用して、生命医科学科では、学科を挙げて授業改善アンケートを行うことになった。

事の発端はFD活動を生命医科学科としてどのように評価するかというFD委員会での議論であった。学生による授業評価の必要性が考慮され、「魅力ある授業づくりのために」と題されたWebによる授業改善アンケートを教員各自が行い、その結果をFD活動の評価点に反映させることになったのである。具体的にはFD活動の評価点の10%、つまり10点を授業改善アンケートに当てる。うち、5点はアンケートを行ったということに対して自動的に付与し、アンケートの結果は残りの5点に反映させるというものである。当然のことながら公平性を保つために、共通のアンケートを用意する必要が生じた。しかし点数化が可能なアンケート作成は少々難問で、例えば「講義スピードはどうであったか？」という設問では、①遅すぎ②遅い③ちょうど良い④速い⑤速すぎの選択肢がまず思い浮かぶ。③に近いほど良い評価で、結果が分かりやすいが、

FDの点数化を考えると(点数が高い)=(評価が高い)とならず、集計がややこしくなる。そこで、遅いか速いかは自分で考えてもらうこととして、①適切である②だいたい適切③普通④あまり適切でない⑤適切でない、という選択肢とした。①を5点⑤を1点とすることで集計は容易となる。さてアンケートの設問であるがFD委員の意見を聞きながら10個用意した。これは、「魅力ある授業づくりのために」ではアンケート1つにつき5個の設問が可能であることと、FDの評価点となる5点の集計が容易なようにとの理由に基づいている。講義に関しては1)難易度、2)量、3)スピード、4)学生の理解度、5)シラバスとの一致度、講義の様子に関しては1)声の大きさ、2)言葉の明瞭さ、3)理解を助けるための工夫、4)静粛さ、5)90分の活用、が実際の設問内容である。手前みそながら、これらはいずれも次回の授業づくりに大変示唆的であると思っている。設問の詳細は中部大学ホームページの「魅力ある授業づくりのために」をクリックし「授業改善アンケートを新規に設定」→「設問一覧を表示」と進み8001～8010番をご覧

ください。

生命医科学科では、このようにしてできあがったアンケートを形のうえではFD評価のために、理想的には各教員が授業の質を高めるために行うこととなった。すでに行った先生からは、アンケートは簡単でやりやすいとの声を聞いている。一方で「コンピュータはどうも…印刷してやりました」という先生もいた。「Webによる授業改善アンケート・授業評価システム」は必ずしも身近なものとはなっていないようだ。しかし問題はむしろアンケートにどれだけの学生が答えてくれるか、にあると思う。8～9割の回答率という先生もあれば4割程度という先生もあった。この回答率を今後も維持あるいはさらにアップさせるためにはどうしたらよいか？授業中にアンケートについて学生にしっかり説明し回答を依頼するのは当然である。「アンケートに答えないと期末試験を受けさせません」と言ってもいいかもしれない。8～9割の回答率はこの言葉から生まれたらしい。アンケートは匿名であるので、それがちょっと刺激的な冗談であることは学生にすぐに分かったらしい(本当に使われる先生は十分注意してください)。アンケートを、学期末に行うのではなく、授業期間中に「ちょっと皆さんの意見を聞きたいから」くらいの感覚で行ってみてはどうだろうか。授業期間中であれば現在受講中の学生に授業改善の恩恵が及ぶ可能性が高い。その点をアピールすれば学生から高い回答率を引き出せると思う。授業改善アンケートには自由記載欄もあるので、設問以外の有益なコメントが学生からあれば、まさに学生とともに授業を作っていくという理想形に近づくのではないだろうか。

この報告が読者諸先生の授業改善の取り組みに少しでも寄与するところとなれば望外の喜びである。